

六つ川小学校地域防災拠点運営委員会

HUG(避難所運営ゲーム)実践講座レポート

日 時： 11月13日(木) 18:00～20:00 会 場： 横浜市立六つ川小学校
参加者： 六つ川小学校地域防災拠点運営委員会のみなさま・地域のみなさま
六つ川小学校教諭 横浜市南区役所職員 南消防署六ッ川出張所長 (計 約50名)
講 師： 「防災塾だるま」白田克雄さん 中村俊光さん (協力： 成松洋さん)

- 【進行】 (司会： 六つ川小学校地域防災拠点運営委員会副委員長 山本裕子さん)
- 18:00 開催あいさつ (六つ川小学校地域防災拠点運営委員会委員長 山田英幸さん)
- 18:05～18:15 「地域防災拠点とは」(講師：白田克雄さん 配布資料：地域防災拠点とはダイジェスト版)
「HUG(避難所運営ゲーム)とは(進め方と条件)」(講師：中村俊光さん)
・ゲームの条件： 地震発生状況、ライフラインや避難所の状況 など
・ファシリテーターとは(事前配布資料：『ファシリテーターとは』)
- 18:15～18:20 アイスブレイキング(事前配布資料：『アイスブレイキングとは』)
役割分担(グループリーダー・発表者・書記)
- 18:20 HUG(避難所運営ゲーム)開始(A～Fの6グループ)
- 19:20～19:50 各グループからの発表と講師による解説(中村俊光さん 白田克雄さん)
- 19:50～19:55 講評(六つ川小学校皆川副校長、南消防署六ッ川消防出張所草薙所長)
- 19:55～20:00 閉会あいさつ(六つ川小学校地域防災拠点運営委員会副委員長 渡辺さん)

意見を出し合う イメージを広げる

カードに書かれた「避難者の受入れ」「連絡」や「事案発生」「支援物資搬入」などにどう対処するか、グループの判断が、避難所の図面の上に落とし込まれていった。



Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ



Eグループ



Fグループ

グループ発表風景



避難所の図面に落とし込まれたカードに対するグループの判断



六ツ川消防出張所長 講評



- 避難者の受入れや連絡・事案などへの対応で、さまざまな“気づき”があった。
…障害者、高齢者、病人などの要援護者や女性への配慮、ペットへの対処、帰宅困難者の受入れ、連絡や事案発生への対処、食料や物資の受入れ、トイレ対策…
- 優先順位をどうつけるか、ルールなどの事前準備の重要性を実感した。
- 地域防災拠点の運営には学校、行政・消防などとの連携が必須と感じた。
- HUGを通じて、気づいたこと、学んだことを、地域に戻って発信し、広げていってください。

講師からのコメント＝白田

- さまざまな“気づき”を大切に！
みんなで意見を出し合い、判断し、分かち合って運営する。
キーワードは“ゆっくり急いで！”
- まず、受付と避難者名簿の必要性に気づいたグループは？

この度当地で行われたHUG体験は、我々のイメージでは拠点に関わっている方々が多いので、固定概念が強い人たちが集まり素直に取り組んでくれるのかなと疑念を感じて臨みました。

しかし、始めたところ約50名の参加者には学校の教職員、区役所の職員、消防出張所所長など目線の異なる人たちを含めた地域住民の方々が集い、過日行われた中村講師リードの神奈川県建築士会横須賀支部の雰囲気が進みましたが、この体験に始めは戸惑う人たちが散見されました。

こういうテーマで皆さんが集い、話し合い、考えることが重要で、講評をとおしていつも感じることは、事前に準備していないと大変なことになるなど「**気づき**」の大切さが出てきたのは良い結果だと思います。

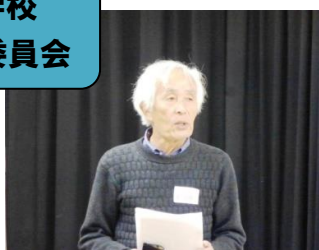
課題は意見交換した事柄が継続して議論され、決めて行く運営委員会に活かされて行くかは当事者の努力と忍耐と熱意に掛かってくると思います。

いずれにしても試みを実践したことは評価に値し、これからの六つ川小学校地域防災拠点の活躍に期待する次第です。

お疲れさまでした！

横浜市立六つ川小学校 地域防災拠点運営委員会

山田 委員長



渡辺 副委員長



司会の山本さん

